



# 2026年3月期 第3四半期決算説明会

TDK株式会社  
2026年2月2日



本日のアジェンダ

# Agenda



1. 2026年3月期  
第3四半期累計連結業績概要
2. 2026年3月期  
通期業績の見通し

# 1. 2026年3月期 第3四半期累計連結業績概要

副社長執行役員CFO 山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2026年3月期第3四半期決算説明会に多数ご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは私より連結業績概要についてご説明いたします。

## 2026年3月期 第3四半期累計連結決算のポイント

- ▶ ICT市場及びHDD市場の堅調な需要継続により前年同期比で増収増益
- ▶ 第3四半期累計として、売上高及び営業利益で過去最高を更新

### 売上高

**18,586 億円**

〔 前年同期比 **+11.3%** 〕

### 営業利益

**2,307 億円**

〔 前年同期比 **+10.4%** 〕

### ポイント

- ICT市場向け小型二次電池、センサの販売が大幅に増加
- HDD市場需要が前年を大きく上回り、HDDサスペンションの販売が大幅に増加
- BEV（電気自動車）の販売低迷により、自動車市場向け受動部品の販売が減少
- 産業機器市場向け小型二次電池、受動部品及びセンサの販売が増加

当第3四半期累計決算のポイントについてご説明します。

当社の業績に影響を与えるエレクトロニクス市場では、ICT関連製品の生産が前年同期比で堅調に推移し、データセンター向けニアライン用HDDの需要も引き続き堅調に推移しました。一方で、自動車市場においては、BEV（電気自動車）の需要低迷が継続し、期初想定を下回る部品需要となりました。

このような経営環境のなか、当第3四半期累計期間では、ICT市場及び産業機器市場における部品需要が堅調に推移した結果、全てのセグメントにおいて前年同期比増収となりました。全体で11.3%の増収、10.4%の増益となり、第3四半期累計として、売上高及び営業利益で過去最高を更新しました。

## 2026年3月期 第3四半期累計連結決算概要

- ▶ 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益
- ▶ 売上高及びすべての段階利益で過去最高を更新

(億円)	2025年3月期 第3四半期累計 実績	2026年3月期 第3四半期累計 実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	16,705	<b>18,586</b>	+1,880	+11.3%
営業利益	2,091	<b>2,307</b>	+216	+10.4%
営業利益率	12.5%	<b>12.4%</b>	-0.1pt	-
税引前利益	2,181	<b>2,351</b>	+170	+7.8%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,609	<b>1,812</b>	+203	+12.6%
1株当たり四半期利益（円）※	84.79	<b>95.48</b>	-	-
対ドル為替レート（円）	152.61	<b>148.74</b>	2.5%の円高	
対ユーロ為替レート（円）	164.90	<b>171.83</b>	4.2%の円安	

※: 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株を5株に分割いたしました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。



### 為替変動による影響金額

売上高	約294億円の減収
営業利益	約93億円の減益

### 為替感応度

(1円の変動による影響額)

#### ドル

売上高	110億円
営業利益	20億円

#### ユーロ

売上高	20億円
営業利益	3億円

当第3四半期累計の業績概要をご説明します。

対ドル等の為替変動で売上高が約294億円の減収、営業利益で約93億円の減益影響を含み、売上高1兆8,586億円、前年同期比1,880億円、11.3%の増収、営業利益は2,307億円、前年同期比216億円、10.4%の増益となりました。税引前利益は2,351億円、前年同期比170億円、7.8%の増益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,812億円、前年同期比203億円、12.6%の増益となり、第3四半期累計期間として売上高、及びすべての段階利益で過去最高を更新しました。

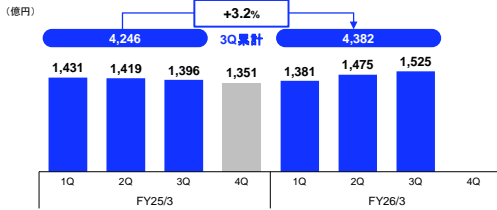
一株当たり四半期利益は95円48銭となりました。為替の感応度につきましては、円とドルの関係において、前回同様1円の変動で年間約20億円、円とユーロの関係において、約3億円と試算しています。

## 第3四半期累計 事業別概況

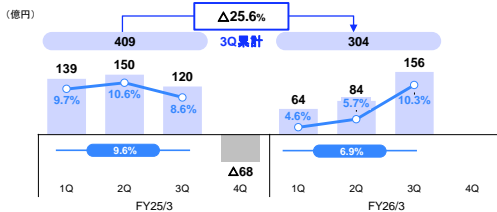
### 受動部品

- ▶ 自動車市場向け販売が減少も、産業機器市場向け販売が増加し、回復基調

#### 売上高



#### 営業利益・営業利益率



#### セラミックコンデンサ

- ・前年同期比で増収減益
- ・自動車市場向け及び産業機器市場向け販売が増加も、ICT市場向け販売が減少

#### アルミ・フィルムコンデンサ

- ・前年同期比で増収減益
- ・産業機器市場向け販売が増加も、自動車市場向け販売が減少。構造改革費用を計上

#### インダクティブデバイス

- ・前年同期比で増収減益
- ・ICT市場向け及び自動車市場向け販売が増加

#### 高周波部品

- ・前年同期比で減収減益
- ・産業機器市場向け及びICT市場向け販売が減少

#### 圧電材料部品・回路保護部品

- ・前年同期比で増収減益
- ・自動車市場向け販売が減少も、産業機器市場向け販売が増加

当第3四半期累計のセグメント別の状況についてご説明します。

受動部品は、自動車市場向け販売が減少したものの、産業機器市場向け販売が増加し、売上高は4,382億円、前年同期比で3.2%の増収、営業利益は304億円、前年同期比で25.6%の減益となりました。

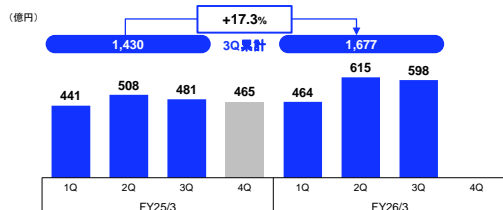
セラミックコンデンサは、自動車市場及び産業機器市場向け販売が増加し増収ながら、平均売価低下の影響もあり減益となりました。アルミ・フィルムコンデンサは、自動車市場向け販売が減少ながら、再生エネルギー向けやAIサーバー向け等産業機器市場向けの販売が増加し増収となりました。利益については、ポートフォリオマネジメントの一環として、当第2四半期に計上した構造改革費用27億円を除いた実質ベースでは増益となりました。インダクティブデバイスは、ICT市場向け及び自動車市場向け販売が増加し増収ながら、製品ミックスの悪化もあり若干の減益となりました。高周波部品は、産業機器市場向け及びICT市場向け販売減少で減収減益となりました。圧電材料部品・回路保護部品は、産業機器市場向け販売が増加し増収も、円高為替影響もあり減益となりました。

## 第3四半期累計 事業別概況

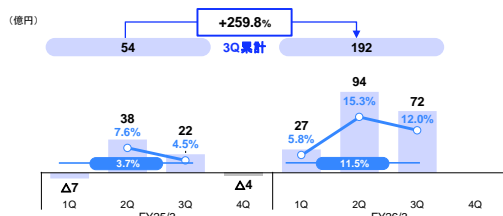
### センサ応用製品

▶ ICT市場及び自動車市場向け販売が増加し大幅な増益

#### 売上高



#### 営業利益・営業利益率



#### 温度・圧力センサ

- ・ 前年同期比で増収減益
- ・ 自動車市場向け販売が増加

#### 磁気センサ

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ ICT市場向け及び自動車市場向け販売が増加

#### MEMSセンサ

- ・ 前年同期比で増収、黒字転換
- ・ ICT市場向けマイクロフォンの販売が増加
- ・ 産業機器市場向けモーションセンサの販売が増加

センサ応用製品事業は、売上高は1,677億円、前年同期比で17.3%の増収、営業利益は192億円、前年同期比で約3.5倍の増益となりました。

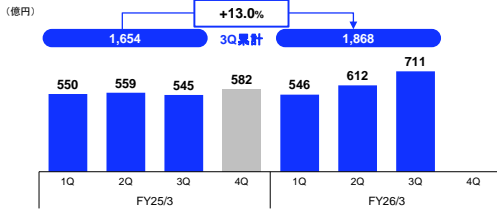
温度・圧力センサは、自動車市場向け販売が増加し増収ながら、製品ミックスの悪化等により減益となりました。磁気センサは、TMRセンサにおいてスマートフォン向け販売が増加し、磁気センサ全体で増収増益となりました。MEMSセンサは、マイクロフォンがICT市場向け販売が増加していることに加え、モーションセンサが産業機器向けで販売増加となり、MEMSセンサ全体で増収、前年の赤字から黒字転換し、センサ全体の収益向上に大きく貢献しました。

## 第3四半期累計 事業別概況

### 磁気応用製品

▶ HDD市場の堅調な需要継続によりHDDヘッド及びサスペンションの販売増、収益性大幅な改善

#### 売上高



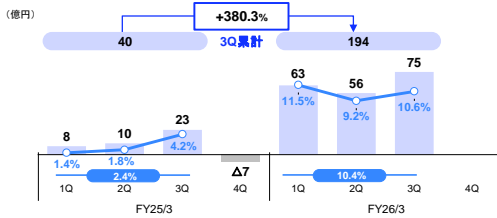
#### HDDヘッド・HDDサスペンション

・前年同期比で増収、大幅な増益

#### マグネット

・前年同期比で減収も、収益性改善

#### 営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2026.

8

磁気応用製品事業は、売上高は1,868億円、前年同期比で13%の増収、営業利益は194億円、前年同期比で約5倍弱の大幅増益となりました。

HDDヘッド・サスペンションにおいて、ニアライン用HDD向け販売数量がヘッドは約15%、サスペンションは約30%強の増加となり大幅な増収増益となりました。マグネットは減収ながら、品質改善等のコスト改善効果もあり、赤字ながら収益性は改善しています。

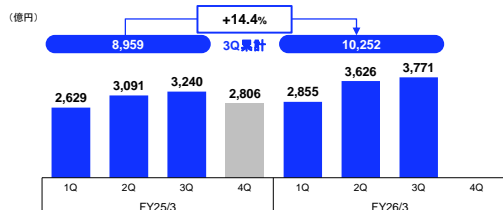


## 第3四半期累計 事業別概況

### エネルギー応用製品

- ▶ 小型二次電池は、ICT市場向け堅調な需要継続により販売数量増、増益

#### 売上高



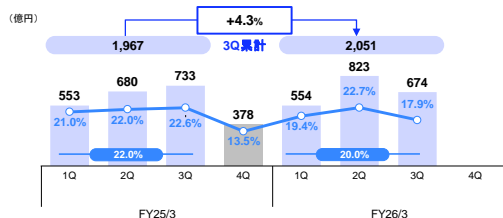
#### エネルギーデバイス (二次電池)

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ 小型二次電池は、販売数量増及び新モデル販売効果により増益
- ・ 産業機器市場向け小型二次電池の販売増

#### 電源

- ・ 産業機器用電源は減収も、収益性改善

#### 営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2026.

9

エネルギー応用製品は、売上高は1兆252億円、前年同期比で14.4%の増収、営業利益は2,051億円、前年同期比で4.3%の増益となりました。

二次電池は、スマートフォン向け小型電池の販売数量増加や新モデル販売効果もあり増収、中型電池も産業機器市場向け販売が増加し、二次電池全体で増収増益となりました。産業機器用電源は、産業機器向け需要の大きな回復が見られず減収ながら、製品ミックスの好転等もあり増益となりました。

## 2026年3月期 第3四半期連結決算概要

▶ 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益

(億円)	2025年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 第3四半期実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	5,810	<b>6,752</b>	+942	+16.2%
営業利益	758	<b>831</b>	+73	+9.7%
営業利益率	13.0%	<b>12.3%</b>	-0.7pt	-
税引前利益	808	<b>876</b>	+68	+8.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	552	<b>698</b>	+146	+26.5%
1株当たり四半期利益 (円)	29.07	<b>36.77</b>	-	-
対ドル為替レート (円)	152.29	<b>154.04</b>	1.1%の円安	
対ユーロ為替レート (円)	162.64	<b>179.32</b>	10.3%の円安	

### 為替変動による影響金額

売上高 約123億円の増収

営業利益 約1億円の減益

第3四半期の業績概要をご説明します。

対ドル等の為替変動で売上高が約123億円の増収、営業利益で約1億円の減益影響を含み、売上高6,752億円、前年同期比942億円、16.2%の増収、営業利益は831億円、前年同期比73億円、9.7%の増益となりました。税引前利益は876億円、前年同期比68億円、8.4%の増益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は698億円、前年同期比146億円、26.5%の大幅増益となりました。  
一株当たり利益は36円77銭となりました。

## 事業別四半期実績

(億円)		2025年3月期	2026年3月期	2026年3月期	前年同期比 [C]-[A]		2Q-3Q推移 [C]-[B]	
		3Q [A]	2Q [B]	3Q [C]	増減	増減率	増減	増減率
売上高	コンデンサ	575	621	663	+88	+15.3%	+43	+6.9%
	インダクティブデバイス	518	550	558	+40	+7.8%	+8	+1.5%
	その他受動部品	303	304	304	+1	+0.4%	△0.4	△0.1%
	受動部品	1,396	1,475	1,525	+129	+9.3%	+50	+3.4%
	センサ応用製品	481	615	598	+117	+24.4%	△17	△2.7%
	磁気応用製品	545	612	711	+166	+30.5%	+99	+16.1%
	エナジー応用製品	3,240	3,626	3,771	+531	+16.4%	+145	+4.0%
	その他	149	148	147	△2	△1.6%	△1	△0.7%
合計		5,810	6,476	6,752	+942	+16.2%	+276	+4.3%
営業利益	受動部品	120	84	156	+36	+30.3%	+72	+86.0%
	センサ応用製品	22	94	72	+50	+231.2%	△22	△23.7%
	磁気応用製品	23	56	75	+53	+232.2%	+19	+34.0%
	エナジー応用製品	733	823	674	△59	△8.1%	△149	△18.1%
	その他	△9	△15	△15	△7	-	△0.3	-
	小計	889	1,042	962	+73	+8.3%	△80	△7.7%
	調整	△131	△130	△131	△0.2	-	△1	-
	合計	758	912	831	+73	+9.7%	△81	△8.9%
営業利益率		13.0%	14.1%	12.3%	-0.7pt	-	-1.8pt	-
対ドル為替レート (円)		152.29	147.54	154.04				
対ユーロ為替レート (円)		162.64	172.31	179.32				



Copyright © TDK Corporation, 2026.

11

当第2四半期から第3四半期のセグメント別売上高及び営業利益の増減要因についてご説明します。

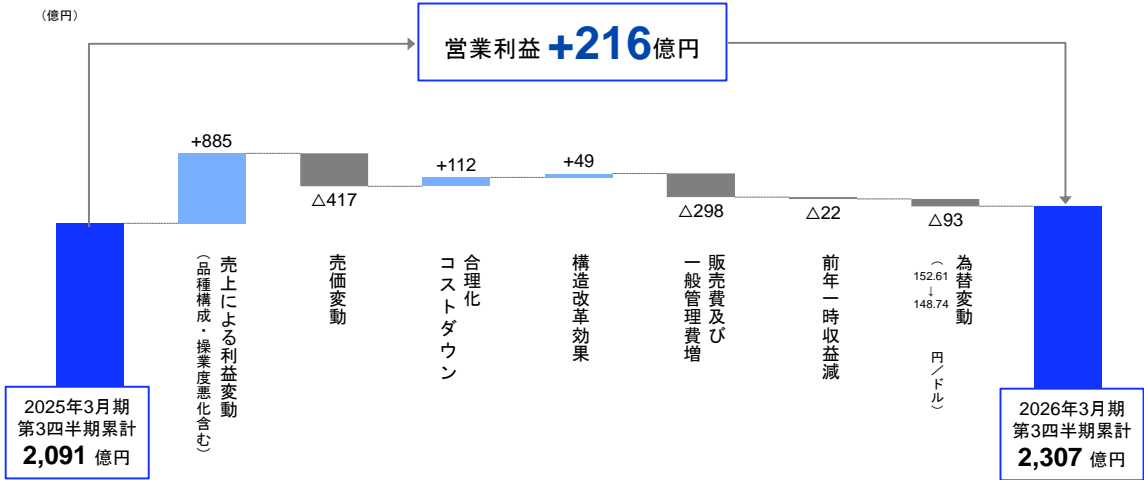
受動部品セグメントは、売上高は第2四半期から50億円、3.4%の増収、営業利益は一時費用27億円を除き、45億円の増益となりました。セラミックコンデンサは、自動車市場向け販売が増加し増収増益となりました。アルミ・フィルムコンデンサは第2四半期に計上した構造改革費用27億円を除けば、売上・利益ともほぼ横ばいで推移しています。インダクティブデバイスは、自動車市場向け販売が増加し増収も、製品ミックスの悪化等により利益は第2四半期並みとなりました。高周波部品は、自動車市場向け販売減少で減収ながら、製品ミックスの好転等により増益となりました。圧電・回路保護部品は、産業機器市場向け販売増加で増収増益となりました。

センサ応用製品は、売上高は第2四半期から17億円、2.7%の減収、営業利益は22億円の減益となりました。温度・圧力センサは、自動車市場向け販売が減少し減収減益、磁気センサは、TMRセンサがICT市場向け需要が季節性による減少影響もあり、磁気センサ全体では若干ながら減収減益となりました。MEMSセンサは、マイクロフォンのICT市場向け販売が季節性の需要減少で減収、モーションセンサも産業機器向け販売が減少し、MEMSセンサ全体で減収減益となりましたが、黒字を確保しております。

磁気応用製品セグメントは、売上高は第2四半期から99億円、16.1%の増収、営業利益は19億円、34%の増益となりました。HDDヘッドは販売数量がほぼ横ばいで推移するなか、新製品構成が向上し平均売価アップもあり増収となりました。HDDサスペンションは、ニアライン用HDD需要の増加で販売数量は約23%増加し、HDDヘッド・サスペンション全体で増収増益となりました。マグネットは、材料価格アップの売価転嫁も進めており増収、赤字が縮小しています。

エナジー応用製品セグメントは、売上高は第2四半期から145億円、4%の増収、営業利益は149億円、18.1%の減益となりました。ICT市場向け小型電池の販売は、季節性により数量が減少したものの、小型電池のパック製品の販売増加により、二次電池全体では増収、営業利益は材料価格の大幅上昇の影響が残り減益となりました。産業機器用電源は、ほぼ横ばいで推移しました。EV用電源は、BEV需要減少で減収ながら、赤字は縮小しています。

# 第3四半期累計 営業利益増減分析



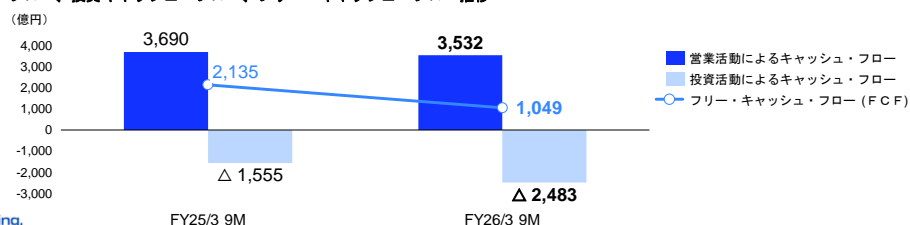
第3四半期累計の営業利益216億円増益の増減分析についてご説明します。

二次電池やHDDヘッド・サスペンション及びセンサの販売数量増加により、885億円の増益となりました。合理化コストダウン112億円、前期実施の構造改革に伴う効果49億円による増益の一方、売価値引き影響が417億円の減益影響となっています。販管費は、新技術や新製品の開発等を加速している二次電池を中心に、R&D費用の増加もあり298億円の増加、前年に発生した一時収益の減少影響22億円、さらに円高為替影響93億円の減益影響もありましたが、販売数量増加効果により全体で216億円の増益となりました。

## 第3四半期累計 キャッシュ・フロー

(億円)	2025年3月期 第3四半期累計実績	2026年3月期 第3四半期累計実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,690	3,532	△158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,555	△ 2,483	△928
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	2,135	1,049	△1,086
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 733	183	+916
為替変動による影響額	281	577	+295
現金同等物残高	8,184	8,782	+598

### ■ 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フロー推移



キャッシュ・フローの状況についてご説明します。

第3四半期累計の実績は、営業キャッシュ・フローが3,532億円、投資キャッシュ・フローは新製品や新技術対応等、二次電池を中心に設備投資が増加し、前年同期比では全体で928億円の増加となりました。フリー・キャッシュ・フローは、1,049億円と前年同期比で1,086億円減少していますが、当期の想定水準を上回って推移しています。

## 2. 2026年3月期 通期業績の見通し

副社長執行役員CFO 山西 哲司

2026年3月期通期業績見通しについて、ご説明します。

第4四半期の売上高増減イメージ

	2026年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 第4四半期予想（前四半期比）		増減要因
		為替レート 第4四半期想定	為替レート 第3四半期基準	
受動部品	1,525	△1～+2%	±0～+3%	・ 自動車市場向けインダクティブデバイス、 サーバー向けアルミ電解コンデンサの販売増
センサ応用製品	598	△9～△6%	△8～△5%	・ ICT市場向け磁気センサの販売減 ・ MEMSセンサの販売減
磁気応用製品	711	+6～+9%	+7～+10%	・ HDDヘッドの販売増
エナジー応用製品	3,771	△19～△16%	△18～△15%	・ ICT市場向け小型二次電池の販売減
その他	147	-	-	
合計	6,752	△11～△8%	△10～△7%	
対ドル為替レート（円）	154.04	153.00	154.00	
対ユーロ為替レート（円）	179.32	178.00	179.00	

第4四半期のセグメント別売上高増減イメージについてご説明します。

第4四半期の平均為替レートは、前回想定の対ドル145円から153円へ変更しました。  
ここでは、比較しやすいように為替変動を除いた増減でご説明します。

受動部品は、インダクティブデバイスが自動車市場向けで増加、またAIサーバー向けにアルミ電解コンデンサが増加することを見込み、全体では横ばいから3%程度の増加するとみています。

センサ応用製品は、磁気センサやMEMSセンサにおいて、スマートフォン向けの販売が季節性により減少すると見ており、全体で△8%～△5%と見込んでいます。

磁気応用製品は、HDDヘッドがニアライン用HDD向け販売が約8%の数量増、サスペンションが第3四半期に一部前倒し受注もあったことから約6%ほどの販売数量減少を見込み、全体で+7%～+10%とみています。

エナジー応用製品は、小型電池はスマートフォン市場向けにおける季節性により減少すると見ており、全体で△18%～△15%を見込んでいます。

## 2026年3月期 連結業績見通し

▶ ICT市場及びHDD市場における堅調な実績を反映して、通期業績及び配当予想を上方修正

(億円)	2025年3月期 通期実績	2026年3月期通期予想		前期比	
		2025年10月発表	2026年2月発表	増減	増減率
売上高	22,048	23,700	<b>24,700</b>	+2,652	+12.0%
営業利益	2,242	2,450	<b>2,650</b>	+408	+18.2%
営業利益率	10.2%	10.3%	<b>10.7%</b>	+0.5pt	-
税引前利益	2,378	2,500	<b>2,700</b>	+322	+13.5%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,672	1,800	<b>1,900</b>	+228	+13.7%
ROIC	6.7%	7.2%	<b>7.4%</b>	+0.7pt	-
FCF	2,010	800	<b>1,150</b>	△860	△42.8%
1株当たり当期利益（円）	88.10	94.84	<b>100.11</b>	-	-
年間配当金（円）	30.00	32.00	<b>34.00</b>	-	-
対ドル為替レート（円）	152.66	146.00	150.00	-	-
対ユーロ為替レート（円）	163.86	168.00	173.00	-	-

2026年3月期連結業績の見通しをご説明します。

先ほどご説明しました通り、当第3四半期累計期間のエレクトロニクス市場においては、スマートフォンの新モデル立ち上がり等もあり、二次電池及びセンサの販売が拡大しました。また、データセンター向けHDDの需要が堅調に推移し、HDD用サスペンションの販売が好調に推移しました。このような状況のもと、当第3四半期の業績は、為替が想定に対して円安傾向で推移した影響もあり、2025年10月31日発表時の想定を上回る水準となりました。

これらを踏まえ、通期業績予想を見直した結果、前回発表の見通しから上方修正し、売上高2兆4,700億円、営業利益2,650億円、親会社の所有者に帰属する当期利益1,900億円とします。

第4四半期為替レートについては、対ドル153円を前提としています。

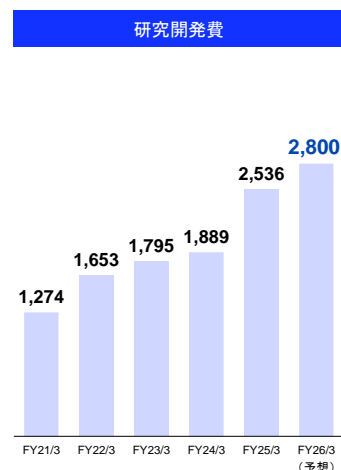
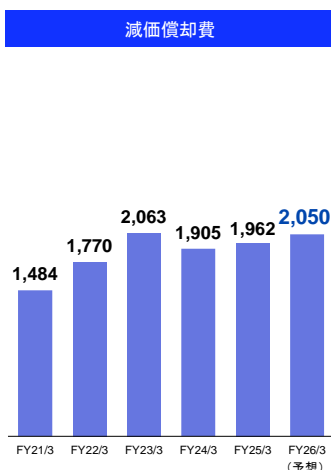
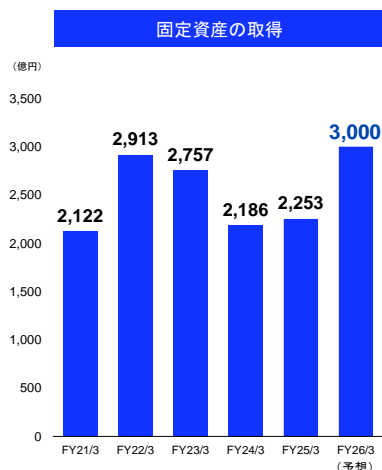
また、利益の増加貢献もあり、フリー・キャッシュ・フローも前回発表から350億円増額し、1,150億円を見込んでおります。

事業ポートフォリオオマネジメント推進の一環として、構造改革費用等の一時費用についても前回予想から約30億円を第4四半期に追加し、通期合計で約130億円を営業費用に見込んでいます。

1株あたり配当金の見通しについては、利益の上方修正を踏まえ、期末配当予想を1株当たり2円増額し、16円から18円に修正します。これにより、年間配当予想を1株当たり32円から34円に修正します。



## 2026年3月期 各種費用見通し



通期業績見通しを上方修正するとともに、各種費用も見直しました。

設備投資は、前回の年間2,800億円から200億円増額し3,000億円、減価償却費は、50億円増額し2,050億円、研究開発費は200億円増額し2,800億円を予定しています。主に二次電池において今後予定されている新製品立ち上げや、新技術開発の加速が増加の背景ですが、来期の中計最終年度の目標達成に向けて、さらなる成長の準備を進めています。

以上、私からの説明を終わります。  
ありがとうございました。

## 将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.tdk.com/ja/ir/ir\\_events/conference/2026/3q\\_1.html](https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2026/3q_1.html)